

2017年度の動向について

1. 丁酉年について

2017年度は干支暦では丁酉年となる。干支は陰陽五行論の中核を担う考え方である。干を空間と見立て陽とし、支を時間と見立て陰とし、陰の時間と陽の空間が合わさって時空を構成し、現実が生まれると考えている。干を甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十種類に分類し、支を子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二種類に分類し、天干地支の組合せで干支暦は出来ている。十干と十二支で120パターンが出来て、その60個を陽、もう半分の60個を陰と定め、干支暦は陽の60個を使用する。その中で2017年は天干が丁、地支が酉の丁酉年となる。

干（空間）甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
支（時間）子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

天干の丁は人工の火という意味がある。ロウソクや照明、原子力等である。人工の火は燃料となる薪をくべ続けないと燃焼しない。つまり炎が燃焼し続けるための努力を要する年となる。逆説的に表現すると薪となる燃料をくべ続ける努力が、実り易い年である。ひた向きな努力を要するが、努力を日々、積み重ねる事で大きく可能性が開いていく年となる。「小事は大事」と云う慣用句がある。辞書を借りると「大事も初めは小事から起こるから、些細な事もゆるがせにすべきでないこと。」とある。つまり、努力の方向性が大切であるとお伝えしたいのである。世の中で活躍していく人たちと、能力があるので活躍が出来ない人たちの違いがここに在る。可能性が開いていくが、今現状で与えられている環境の中で、求められていることをしっかりと出来ない人は、夢や可能性の領域に足を踏み入れる事が出来ないと、強くお伝えしたい。多くの陰転している活躍できない人たちは、能力はあるが、現状の与えられた環境に不平不満を云い、満たされている事よりも不足の領域に視点が向き、与えられた環境に感謝をしていない。今の環境で求められていることが出来ない人が（小事）、夢や可能性の領域に向かっても（大事）、実現不可能である。天干が丁の期間は努力が報われるが、まずは小事（今いる環境）でコツコツと積み上げていく努力をしていかないと、小事は大事の土台となるので、大きいことは出来ないのである。従って、努力の方向性を、しっかりと認識すべきである。大きな夢や可能性を手にするためには、まずは目の前にある与えられた環境の中で、基礎の反復練習をコツコツと積み重ねていく事が大切なのである。この努力の方向性を見失わずに、急がば回れで小事をコツコツと積み重ねていく努力をしていく事で、初めて大事（大きな夢や可能性）を追い求めるステージに足を踏み入れる事が出来るようになるのである。型破りは型（基礎）が出来る者にしかできないのである。

地支の酉は季節で云うと旺秋となり、五穀豊穣の時期で、物事が実る絶頂期となる。酉は陰の金性である。これは闘争、プライド、名誉、名声、気品等の意味がある。地支は現実を表すので、気品よく私利私欲を捨て、他者や社会への役割意識を持って生きていくと良い。まず他者に与えよの精神を意識することである。天干地支を組み合わせた丁酉の相対的な運気をまとめると、常に自ら工夫、努力をする人の運気が開いていくことになる。この年は常に「自力を尽くして物事を成し遂げようとする」自助努力が必要な年である。また最後を務めることを「トリを務める」と云うが、酉年は物事の一つの終了、まとめを意味する。つまり何かに決着をつける必要がある年でもある。この酉年は、もし自分が何らかの社会的な役

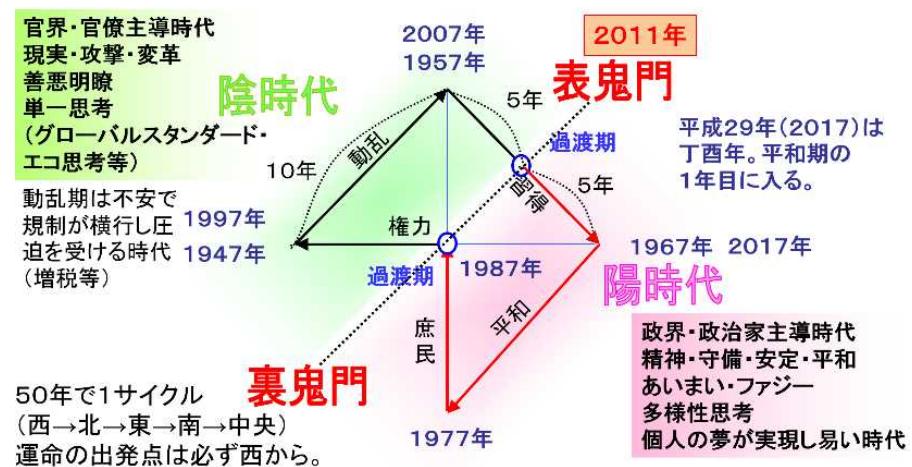
目が与えられたら、それを素直に受け入れると運が開いていく。また丁酉は、下からの突き上げで爆発的な事態が起こる事を表し、古来より注意すべき革命の年の一つとされてきた。旧来の勢力が繁栄して、陽気が最も勢いを増す中で、徐々に内部で熟成されてきた新勢力が、旧勢力と爆発的な衝突を起こす様を表している。従って、体制の改革をどんどん進めて、爆発を未然に防ぐ努力が求められる。新旧の融和を図る組織変革の年である。何らかの変転変化を、大胆に、激しく、ドラスティックに取り入れる年とすべきである。それを優柔不斷に過ごしていると2018年（戊戌）により粉糾し、2019年（己亥）で大爆発を起こすと古来より伝えられてきている。大きな課題に発展する前に、仕事も家庭も、大改革を行う時期と位置付けると良いであろう。

歴史は繰り返す。丁酉年が過去、どんな事象があったかを検証してみよう。60年前の1957年1月には南極観測隊が昭和基地を建設。2月には第一次岸内閣が成立。3月には欧洲原子力共同体設立条約が調印。4月には第五北川丸の沈没事故、死者行方不明者130名。5月にはイギリスがクリスマス島で初めての水爆実験実施。6月には岸首相の訪米、日米新時代、安保条約検討が開始。7月には九州西部に豪雨で死者行方不明者が約千名。8月には茨城県の東海村の原子力研究所で原子炉が臨界点に達し、原子の火が灯火。9月にはソ連のウラウ地方で原子力事故発生。10月にはソ連が人工衛星の打ち上げに成功。11月には日本原子力発電が設立。12月には日ソ通商条約が調印。60年前の丁酉は安倍総理の祖父である岸信介氏が総理になり日米新時代を切り開くために春に渡米。いみじくも2017年には米国で新しい大統領が就任する。新たな関係が日米両政府の間でスタートしていく。丁の年にふさわしく60年前の丁酉年、日本では原子力に関する出来事が多くみられる。初めて原子の火が灯ったのもこの年である。2017年には原発の再稼働等の動きがみられる一方、太陽光発電等が進むもののさほどの勢いは出にくいであろう。またロシアとの関係も困難な状況が続くとは言え着実に前進していくと予測される。この年に気になるのは地震と火災である。日本は地震が多い国であるが、新たな地域で地震が発生する可能性と、火山の爆発の可能性が多くなる年である。ただし地震について東京などの大都市は結構揺れが強くなってしまって、大地震までにはならないであろう。いずれにしてもこの年の生き方のポイントは大きな夢を持つこと。一見無茶と思えるような夢でも躊躇せず持つ。そしてそれに向けて少しでも努力する。するとかなりの領域において、思いが実践し易くなる。60年前の丁酉の年社会の動きでは口カビリーブームとなり五千円札と百円硬貨発行。ダイエーの一號店が開店したのもこの年。コカコーラやアーモンドグリコがヒットし、新たな枠組みのビジネスキームが発展し易い時期となる。

2. 丁酉年の国家運気と経済動向

2017年は2007年よりスタートした習得期が終わり、平和期に入る。いよいよ本格的な好景気時代に入っていく。毎日新聞1月5日の記事によると、経済3団体トップは、2017年1月5日に開催された新年祝賀会で、次のようなコメントをしている。『円安・株高といった「トランプ相場」の追い風を受ける今こそ、日本全体が構造改革に取り組む好機との認識で一致。経済界としては、賃上げや投資に積極的に取り組む姿勢を表明した。3団

体共催の新年祝賀会には政財界の要人ら約1900人が出席。その後の会見で今年の日本経済について、「一歩も二歩もステップアップする」と期待を示した。3人は、こうした好環境の中で、日本経済の実力を底上げするための、構造改革を進める時期だと認識を共有。3年間続けてきた賃上げの勢いを継続していくべきだと述べ、会員企業に今春闘での積極的な回答を促す姿勢を示した。企業のM&Aや研究開発投資など、先々を見据えた収益体質の強化に取り組むべきだとした。また、政府に対しても社会保障などで構造改革の推進を求めた。』この様に経済界のトップたちも、軒並み景気は良くなると予測している。日本国の運気は国力が今まで以上に上昇する。まだまだ経済面での不安定さは残るもの、世界の中ではかなりの強運に向かうと予測できる。東京オリンピックは三年後になる。これから約二年から二年半は公



共投資が増える事は間違いない。オリンピックという夢に向けて公共投資も企業の投資も増えていく。このような時代の傾向の中にあって夢を持った人、およびそういうトップの企業が着実に伸びていく。夢や可能性にチャレンジしていく好機である。前述した通り、丁酉年は体制（枠組み）の大改革に適した時期である。経済3団体トップが帝王学を学んでいるかは存じ上げないが、干支暦の方向性と、ほぼ一致したコメントを出している。大きく枠組みを意図的に変化させ、構造改革をする好機である。その意識を持って仕事に取り組むことで大きな成果を作り易い1年となる。

丁酉年における企業の在り方について、別の観点で論じると、世の中は人で成り立っていて、企業や組織は、正に人次第といつても過言ではない。企業規模の大小に関係なく、良い社員がいる企業は伸びるし、また良い管理職がいる企業も伸びていく。企業にとっては、波乱の中に大きなチャンスがある時代になっていく。この年を迎えるにあたって、トップがどのような心構えを持つかで入社してくる社員の質が決まり、また現在いる社員の仕事への意欲が変わっていく。ではこの時代の企業のトップ、およびユニットリーダーが持つべき心構えについて、まとめてみよう。

1番目は、積極的に変転変化を取り入れる事である。幸運期の時代において、より良くするには、現状維持ではダメである。頑なな心や批判的な心を持っていては、飛躍できないのである。何事でも柔軟に受け入れ、前向きになる事である。そのためには、頭も体も動かし、使うことである。「運は動より生ず」という教えがある。動かずして運命は良くならないのである。批判的で否定的なエネルギーでは、運気は好転しない。しかし、批判的で否定的な人は、自分がそのようなエネルギーを放っていることを自覚していないし、またフィードバックを受けても、受け入れようとしない傾向が強いものである。他者からの助言を謙虚に受け入れ、肯定的なエネルギーでいることを意識する事である。2017年は、まずは体を動かすことから始めると良い。スポーツをしたり、散歩をしたり、長距離の出張をしたり、新たなチャレンジに取り組んでいく事である。

2番目は、目前のアップダウンに動じずに、どしど構える事である。人は執着がある。一度上った山の頂上から降りようとはしないものである。しかし、自分が頂上に近づいたと思ったら、傲慢にならずに、次は下りだと身を引き締めることができ改良のポイントとなる。また山を下っているときは落ちぶれているのだと思わず、新たな高みに登るためのステップであることを受け入れる事である。希望をもって次への準備をするべきである。

3番目は、知恵を大切にすること。知恵とは恵まれていることを知ること、または、それに気付くことである。自分の足元に、身近な所に、次の時代を切り開く新たなヒントがたくさん眠っている。その存在に気付く事が大切なである。メーテルリンクの青い鳥が教えてくれるように、本当に大切なものは、身近に存在しているものだ。足るを知る為には、まずは何事にも感動する心を持つこと。感動が少ない人は、大きさに感動する“フリ”をすることである。まずは形から。後に心が付いてくるものだ。心が入っていないなくてもいいので、形だけでも感動する振舞いをしておのずと実質が伴ってくるものだ。感動する機会を増やすことが出来る人は、ここ一番において必ず気付きを得ることが出来るものである。気付く事ができれば自然に売上げも利益も増えていくのである。

3. 丁酉年の国内外の動向

丁酉年の国内政治の向かう方向について。昨年夏の参議院選挙において、与党は議席の三分の二を確保、これで衆議院参議院ともに与党が三分の二を確保して安定政権となった。それに対して野党は一部野党連合を実現させて頑張りはしたが、この野党連合が中途半端な為に今一つ勢いがない。与党の存在感が増していくであろう。また今年の安倍総理の運気は、世界のリーダーの中で一番強い運気である。安倍総理は申酉天中殺（日干支：庚辰）ではあるが丁酉年も守護神に守られていて、大きく飛躍していく年となる。2位がロシアのプーチン（日干支：丙戌）であろうか。2017年の安倍総理は、かなりの部分で自分の思いを遂げていくであろう。安倍政権は盤石な運気で守られる傾向が強くなる。

転じて諸外国の運気と動向について。まずはアメリカ。第45代大統領にトランプ（日干支：己未）が就任する。第45代は禄存星の世界となる。トランプの宿命を観ると禄存星を持っていないので、運気は適合していない。更にトランプの陽占を観ると、中央に貫索星、中年期は天禄星を持っているので、圧倒的な保守主義に走る傾向がある。聰明ではあるが、意外とお人好しな部分があり、配偶者が犠牲となって世に名が残る宿命である。また大運天中殺の14年目に入る。鳳閣星大運なので、舌禍の課題で失脚する可能性がある。しかし、陽占の東方も鳳閣星なので、仕事、ビジネスにおいては、大チャンスの時期でもある。更に別の視点で論じると、大統領選挙を制したのはトランプが大運天中殺の



虚現象で大陽転し、大運の東方が納音で、かつ年運が申酉天中殺のヒラリー（日干支：戊寅）を食ってしまったからだと読み込む事が出来る。しかし、ヒラリーは申酉天中殺つまり今が天中殺、またトランプも大運天中殺の後半に入ってきており、2年後からは下降気運に入るので、どちらが大統領になんでも喜べなかつた。つまり、こういう二人しか大統領候補になれなかつたという事で、アメリカの運気は衰運に入っていると観る事が出来る。今やアメリカでは白人は6割以下、5歳以下だと白人の方がマイノリティーになっている。アメリカは豊かな国、白人の国、頼れる国という認識ではなくなつてくる。それでも世界一の大國である事は間違いないが、今までのような関係ではなくなるのは事実である。

次にドイツおよびフランス。ドイツのメルケル首相は申酉天中殺（日干支：甲戌）、つまり2017年も引き続き天中殺の年となる。国内に数多くの難民問題を抱え、また大手企業の弱体化もあってメルケル首相の気は一段と落ちていきます。くどいが安部総理も申年に引き続き酉年も天中殺であるが、今回の安倍総理の天中殺は強い守護神に守られている天中殺なので災いはほとんどないのである。一方フランスのオランド大統領（日干支：庚子）は、今年は若干運気を持ち直すが、引き続き低迷気味になる。

次はロシアについて。ロシアはプーチン大統領の運気が悪くはない。2017年は、プーチン大統領にとって、和合の年となるので、アメリカ、日本、欧州各国との間で和解が進み、経済面でも立ち直りが見られるようになると予測できる。ただし大統領の健康面が少々下がり気味なので体調不良が予想される。頑健な大統領ではあるが、この一年は健康面での注意が必要となる。次に中国について。習近平主席（日干支：癸未。公表は1953年6月15日だが、実際は1953年6月1日であると推測できる）は申酉天中殺で酉年も天中殺が継続する。申の年には南シナ海で主張していた中国の領有権が仲裁裁判所で否定された。酉年も運気は低迷なので海外に積極的に出ていても成果は少ないであろう。この年中国政府の執行部が大幅に入れ替わるが、人事で失敗する懸念もある。なお中国経済は懸念材料も多々あるが何とか最悪の危機はとりあえず脱却したように予測できる。ただ大手の国有企业が数多く続く限り、いつ経済が大暴落してもおかしくない状況はある。

次に韓国と北朝鮮について。韓国の朴大統領（日干支：戊寅）は申酉天中殺なので申年に引き続き酉年も天中殺となる。朴大統領は大きく天中殺現象の破壊現象が表面化し、現職の大統領で政治疑惑が明らかになり退陣要求を強く求められていて、何があつてもおかしくない余談を許さない状況である。韓国は歴代大統領のほとんどが退任の後、逮捕されたり責任追及されたりしている。朴大統領も、その例外にはならないであろう。北朝鮮の金正恩は飲んで食べて遊ぶのが好きな鳳閣星が三つ、赤ちゃんの星の天印星が二つ、とても一国のトップは務まる宿命ではない。長期政権維持は難しいであろう。そう遠くないうちに政権の大きな変動が起こる可能性がある。丁酉年は後半から翌年にかけて朝鮮半島の情勢からは目が離



せない状況が起こる可能性がある。

4. 丁酉年の意識すべきポイント

2016年丙申年は大火の危惧があるとお伝えしたが、2016年12月22日に新潟の糸魚川市で大火が発生し、同月25日千葉の市川市でスクラップ工場の大火災が起った。干支暦の法則通りである。2017年は丁酉年であるので、引き続き火災には注意が必要である。昨年ほどの火災にはならないと予測されるが、小さな火災は、普段以上に発生し易いのは事実なので注意をして欲しい。陰陽五行論では陰は太陰でお月様の意味、つまり夜を意味する。これに対して陽は太陽、昼を意味する。今は暗く寂しい夜の時代、冬の時代が終わって明るい暖かい昼の時代、春から夏の時代に入っていく。この時代は未来に夢を持てる時代、なんとなく心ウキウキする時代となる。しかしこの好機を手に入れる為には、次の事を心がける必要がある。1番目は、常に笑顔でいること。笑う門には福来たると云うが、陽の時代に絶対に必要なのは明るい笑顔である。2番目は常に人に優しく尽くすこと。陽の時代には人に優しく温かく尽くす事が大切である。つまり人の為に出来る限りのことをしてあげることが肝要である。例え目先に損をしても、損して得取れの精神で居る事である。3番目は、苦手な人とも交流すること。人は自分と気の合う人とは付き合うが、苦手な人や嫌いな人は避けがちである。それでは運勢は開かない。むしろそういう人と付き合うようになると運気が広がります。陽の時代は多様性の時代。多様性を受け入れてこそ、大きく発展していくのである。4番目は、人からの批判を自分の栄養と考えること。人は批判されるとイライラしたり、拒絶する傾向がある。特に年齢を重ねていくと、他者からの厳しい指摘を受け入れたくなくなり、頑なになりがちである。人からの批判は自分の栄養素だと考え、有り難く受け入れると運気が急上昇し始めていくものである。5番目は、何があってもダイジョウブと自分自身に言い聞かせること。誰でも人生を渡る上で、危機に遭遇することがある。その時に悩んだりする前にまず「ダイジョウブだ。何があってもダイジョウブ。」と声に出して云う事がポイントである。実際に声に出す事である。出来れば3回唱えてみる。陰陽五行論の開運法は決して難しくはない。むしろ実に簡単でしかも単純である。しかしその簡単な中に真理があり、単純さの中に偉大な開運法があるので。今年がどのような星回りであってもどうかめげずに、開運方法を実践してみて頂きたい。